



# 福井県PTA

No.126  
2024 NOVEMBER



発行者 福井県PTA連合会 会長 笠松 照喜 広報委員会  
発行所 〒918-8135 福井市下六条町14-1 (福井県生活学習館2階) TEL 0776-41-4253 FAX 0776-41-4333  
H P <http://www.fukui-pta.jp>  
E-mail [mail@fukui-pta.jp](mailto:mail@fukui-pta.jp)

## 令和6年度福井県PTA連合会スローガン

# 楽しむけれど無理しない みんなでつながる こどもまんなかPTA

いすくらん

福井県PTA連合会会長 笠松 照喜  
(勝山市立勝山北部中学校PTA)



令和6年5月25日に開催された総会でご審議いただき、今年度の福井県PTA連合会会長を務めさせていただきます。

私には三人、とてもかわいい娘がいます。大学生、高校生と中学生。今思い返しても、三人とも反抗期というものは無く、一緒に出かけたり、話をしたり。娘たちがこのように成長できているのも、妻や学校の教職員の皆様、地域の皆様に見守られ、支えられてきたからであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、人々の生活スタイルや価値観の変化、ICTなどの技術の発達などにより、近年の子どもの置かれている環境は、私達が経験してきたものとは大きく異なっており、PTAも、それぞれの時代に応じた役割、在り方があると思います。

例えば、最近ではコロナ前と同様になってきていますが、行事や活動は以前よりも効率化を重視したり、取捨選択したりなど負担軽減を図るものもあれば、伝統などによりこれまでのやり方や内容を踏襲しているものもあるかと思えます。

また、近年少子化が全国的な課題となつていますが、国においては、子どもたちのために何がもっとも良いことかを常に考え、子どもたちが健やかで幸せに成長できる社会を実現するという理念のもと、こどもまんなか社会の実現に向けた様々な取り組みが始まっています。

私たちがPTAはこれまでも、子どもたちのために、そして、子どもたちを取り巻く環境の改善のために活動してまいりました。

世の中の流れや環境の変化が激しい時

代においても、子どもたちをまんなかにおいた取り組みの継続は必要ですが、それと同時に、保護者の皆様や教職員の皆様も日頃のお仕事に加え、地域や家庭での役割など日々忙しい毎日を通しておられることと思います。

全ては子どもたちの健やかな成長を願つてのものではありますが、無理をすることは楽しくもなく、やらされ感を感じ、継続することもできません。規模や環境に応じた無理のない範囲で、笑顔溢れる活動をしていただきたいと思えます。

福井県PTA連合会は、子どもたちの健全な成長のために頑張る皆様に対し、必要な情報や学びの場の提供、各種支援を行うしていきたいと考えています。

例えば、県議会等での議論内容の収集や議会傍聴を行い、可能な限りではありますが、今、行政では子どもたちのためにどのようなことが議論されているのか、どのような施策に取り組まれているのか、予算が使われているのかなどについての情報を収集し、会員の皆様に届け、また、会員の皆様の声を行政に届けることができると考えています。

また、日常では、多くの子どもたちが一日の大半を学校で過ごしており、子どもたちの健やかな成長には学校で過ごす時間が大きな影響を与えます。子どもたちがが学校でより良い時間を過ごすためには、学校で働く教職員の方々が笑顔で活き活きと働ける環境が必要であり、教職員の方々の職場環境の更なる改善に向けた取り組みも必要であると考えています。

今年度は「楽しむけれど無理しないみんなが」つながると、こどもまんなかPTAをスローガンとし、こどもまんなかPTAの実現に向け、児童生徒の健全な育成に係る全ての人たちが楽しみ、学校・地域・家庭が連携した、持続可能なつながる環境づくりを目指しています。PTAは任意団体ではありますが、子どもたちのためにという共通の想いを持った多くの方々による活動であり、その活動は、将来子どもたちが大きくなったときに地域への愛着や愛情として実ることと思います。

せっかく活動するのなら、無理をせず、笑顔で楽しみましょう。



県PTA連合会つながるセミナー「子どもの居場所を考える」



第72回日本PTA全国研究大会川崎大会



令和6年度県PTA連合会役員

## PTA活動中の事故の防止を。万が一事故が起きたら、一報を。

福井県PTA連合会安全会 ☎0776-41-4253 (届出は30日以内)

申請の手続きや書類様式などは、県PTAホームページ上に掲載しておりますので、ご利用下さい。



奥越ブロック

講演

「子どもの自己肯定感と親の関わり」

福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科教授 吉弘 淳一氏  
 〔開催日〕7月6日(土)  
 〔開催場所〕結とびあ(多田記念大野有終会館 305・306号室)

実践発表① 大野市陽明中学校PTA

発表テーマ 「みんなで話し合っってほしい」

実践発表② 勝山市立野向小学校PTA 青郊会

発表テーマ 「世帯数減少のなかでのPTA活動」

【講演】子育てにおいて子どもの自己肯定感を育むことが大事だと再認識するとともに、自分自身の心の構えを知ることで人間関係を上手に行っていることを知った。隣席の人との話し合いやエゴグラムを用いた交流分析など楽しい講演であった。

【発表①】学校統廃合を機に、全員参加型やサポート隊などの新しいPTA活動に挑戦すること、1年後の成果がどのようなものになるのか楽しみです。

【発表②】保護者数が減少する中で、委員会や役職を減らすだけでなく、地域住民を児童がいない世帯まで巻き込んで活動されていることに驚きました。小規模校



におけるPTA活動をどうしていけばいいかのよい例だと感じた。  
 (奥越ブロック長 荒矢 大輔)

地区別研修会



丹南ブロック

講演

「食の大切さについて」

「ふくい食育リーダー」管理栄養士 野路 直美氏  
 〔開催日〕6月23日(日)  
 〔開催場所〕丹生郡越前陶芸村文化交流会館

実践発表① 越前市北新庄小学校教育友会

発表テーマ 「二刀流!? 学校と地域のために」

実践発表② 南越前町立南越前中学校

発表テーマ 「新しい学校とPTA活動」

【講演】子供をとりまく食の問題として「アツのご食(孤食、個食、粉食、固食、子食、小食、濃食)」という言葉を用いて、現状はまさにこのような状況になってしまっていると再認識ができました。改善するためには、共食を心がけて家族みんなでご飯を食べる環境を作り、食について家族みんなで成長していくことが大切と改めて学びができました。

【発表①】PTAの運営と自治体の運営を兼任している事で、学校と地域のイベントが同時に合わさって開催されており、各行事に対して学校と地域が一体となって行っている様子が非常に素晴らしいと感じを受けました。

【発表②】三つの中学校が統合する複雑な中で、細かく組織を構築することにより、それぞれの学校の意見を集約できる仕組み作りが出来ており、大変素晴らしいと感じました。また統合の際には開校支援委員会を立ち上げ、アンケートなどを利用して会員の意見などをまとめる機会をつくるなど、3校が非常にまとまって活動している様子がとても素晴らしいと感じました。  
 (丹南ブロック長 小川 一貴)



地区別研修会





【開催日】7月6日(土)  
【開催場所】福井県自治会館

実践発表① 福井市殿下中学校

発表テーマ 「殿下校想い出ツナグプロジェクト」



【発表①】2024年3月をもって福井市殿下中学校は閉校したが、地域住民、卒業生、PTA会員、PTA会員OB一体となり、懐かしい母校への想いを集めイベントを開催し、記念誌の作成等を通じて記録を残した。当活動を通じて閉校という地区にとつて甚大な損失を乗り越え、新たなスタートとして地区の未来へツナグきっかけとした。10月25日の東海北陸ブロック研究大会愛知大会の分科会でも発表を行った。

昨年12月に行われました福井市の単P会長や市P連担当理事がグループになってPTAの課題や各活動内容などを話し合う会長会議を開催した。  
今年度は校長先生、行政

の職員の方々にもグループに入って頂いた。最初の分科会①ではテーマは自由としてアイスブレイクを交えて話し、分科会②では学校再編、部活動の地域移行、学校予算とPTA予算の3つのテーマを事前に申し込みアンケートで選んだテーマについて、テーマ毎に分かれたグループ内で話し合った。

（福井ブロック長 朝田 健二）

講演

「子どもへの関わり方」

元富山大学名誉教授 神川 康子氏  
【開催日】6月15日(土)  
【開催場所】みくに未来ホール

実践発表① 坂井市立高椋小学校

発表テーマ 「高椋小学校創立150周年」

実践発表① 坂井市立春江小学校

発表テーマ 「PTA見える化」



【講演】子供との関わりや生活スタイルの大切さ、生活リズムを整えることが子供の成長に大事であることが再認識できました。

【発表①】1年間にわたつてさまざまな活動が行われたことに感銘を受けました。記念式典やふるさとイベントはもちろんのこと、高・中・低学年それぞれの行事や親子行事も盛りだくさんで、学校全体が一丸となつてこの節目を祝つた様子が伝わってきました。

【発表②】多くの保護者が「何をしているかわからない」という感覚を抱えている中で、定期的に紙面を通じて情報発信を行うことで、PTAの役割や活動内容がより透明になり、保護

者の理解と協力を得やすくなると思います。また、PTA役員が自ら情報発信に積極的に取り組むことで、PTA活動に対する信頼感が増し、活動への参加や協力がしやすくなるきっかけづくりにもつながるでしょう。

（坂井ブロック長 志尾 祐樹）



講演

「子どもと読書」

福井おはなしの会 松原 和子氏  
【開催日】7月20日(土)  
【開催場所】おおい町総合市民福祉センター

実践発表① 美浜町PTA連合会

発表テーマ 「楽しく笑顔でPTA活動を」

実践発表① おおい町立本郷小学校

発表テーマ 「『一緒に育む喜び』  
くめりちゃん  
おとなクラブの挑戦」



【講演】講演では、福井おはなしの会 松原和子講師より「子どもと読書」というテーマで講演をいただきました。ひとりに一台携帯電話があり、各種ゲーム機においても各家庭に普及しているなか、「本」を読むことが非常に少なくなった時代ですが、先生のお話を聞かせていただき、「本」というものの大事さを再度認識するとともに、「本」だからこそ楽しめるということを学びました。

【発表①】美浜町にある小学校のPTAで組織するPTA連合会のみなさんが、各々の学校での取り組み実績や、成果を発表していただきました。

【発表②】本郷小学校PTA

からは、大人が積極的にPTA活動に参加し易くなる方法を検討し、実践した結果について発表がありました。各PTAでの素晴らしい取り組み内容を聞け、今後の各単PTAでの活動に活かしていただければと思います。

（嶺南ブロック長 屋敷 浩道）



## 広報委員会

# 広報紙づくり講習会

6月16日(日)地域交流プラザ(AOSSA)にて、円山小学校PTA執行部広報担当OB横坂氏をお招きして広報誌作成のポイントを学びました。

過去に全国小中学校広報誌コンクールの受賞経験もある講師の経験談も交え作成の際のレイアウトの仕方、印刷屋さんとの関わり方等、実際にコンクールに出した広報誌を参加者同士で回覧しながらお話を伺いました。

広報紙に関心のある方々が遠方からも参加してください、参加者から講師への積極的に質問する姿も見られ、大変有意義な講習会となりました。



## 特別委員会

# つながるセミナー

10月5日、「つながるセミナー『子どもの居場所を考える』」が、一般参加者18名、オンライン参加者20名超にて、開催されました。前半は、ご自身の不登校の経験からフリースクールを運営すること、不登校の子供達を支える活動に取り組んでいる方、子供の不登校に悩んだ経験から、保護者(家族)の相談やつながりづくりに取り組んでいる方、子ども食堂を運営し、不登校の子供達と交流する方をパネリストとして、子供達の気持ち、保護者の悩みと回復への道しるべとなるパネルトークを行いました。後半は、参加者が4つのグループに分かれ(内1グループはオンライン)パネリストの方にも入っていただいて、個々の悩みや疑問、愚痴等、参加者自身の持つ思いを分かち合う機会を持ちました。

### 意見・感想

【参加者アンケート】(一部)回答21

「とてもよかった...」 「よかった...」 「13」 「普通...」 「あまりよくなかった...」

・とても勉強になったし、参加できて良かったと思います。

・不登校に関してこのように活動している事を知れたのはすごくよかったです。

・実体験を含め貴重な意見、アドバイス等とても勉強になりました。

・今まで支援者の立場でいろんな研修などに参加してきたが、今回はじめて自分のことを話して、なんだか、少しスッキリした。



# 日本PTA全国研究大会川崎大会

8月23〜24日川崎市とどろきアリーナ

「ウェルビーイング実現を川崎の地から」活かそう「縁」の力」を大会スローガンに、2日間・7つの研究課題について、講師トーク・参加者グループディスカッション等、濃密な学びと感動、そして活動への意欲を共有しました。

### 参加者の声

◆一番に残った内容としては、「子供と血は繋がっていても、人生までは繋がらない」の言葉でした。振り返ってみると自分の都合のいい子供にしたかっただけなのかと深く反省も感じました。これからは、子供がやりたい事をやりたい様に出来る環境をつくっていく努力をしていきたいと思います。

◆(前略)熱い思いを引き継ぎ、いい活動を継続し続けるように核となる人物の存在やその思いを引き継ぐ後継者の育成が大切。今回紹介された事例や、大会を通して知り得たウェルビーイングを実現するための活動を参考に、福井県でも何か始めないといけないなと感じました。

◆講師ご自身のPTAでの八年にわた

る経験を元に、皆が楽しめるPTAの運営の仕方や、ウェルビーイングな社会についてお話いただきました。ありのままの自分を愛し、まずは自分自身が幸せであることは、自分だけでなく人のためになるということ、そして幸せは伝染するという言葉が印象的でした。

◆「担任が自己の幸せを感じているほど、その学級の子供達は、幸せと感じている割合が高い」との調査結果や、川崎市子どもの権利条例制定の際、子供達から「まずは、大人が幸せであること」をしっかりと考えてほしい」との声が上ったことは、教職員・保護者間がしっかりとつながり、学校、家庭、地域の状況、困った感やうれしかった感等を共有できることが大切だと感じました。

もっと親力を発揮しよう!〜

